

報告事項キ

部活動改革に係る意見交換会（圏域別）及び部活動在り方検討会の開催
結果について

部活動改革に係る意見交換会（圏域別）及び部活動在り方検討会を開催しました
ので、別紙のとおり報告します。

令和6年7月31日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

部活動改革に係る意見交換会（圏域別）及び部活動在り方検討会の開催について

令和6年7月31日
体育保健課

部活動改革に係る各圏域の意見交換会及び部活動在り方検討会を開催しましたので報告します。

1 各圏域の意見交換会

(1) 概要

令和5年8月に県が策定した「鳥取県公立中学校等における部活動の地域連携・地域移行に向けた推進計画」を踏まえ、部活動の地域連携・地域移行に向けた取組状況や課題等について情報共有した。

(2) 日時及び会場

東部	令和6年6月20日（木）	午前10時から正午まで	県民ふれあい会館
中部	令和6年6月26日（水）	午後2時から午後4時まで	エースパック未来中心
西部	令和6年6月21日（金）	午後2時から午後4時まで	米子コンベンションセンター

(3) 意見交換の内容

ア 各市町の現状

- (ア) 14市町で協議会（検討会・意見交換会）を立ち上げ、推進計画等を作成・検討中。
- (イ) 多くの市町が、地域連携型（部活動指導員・外部指導者）及び拠点校（合同部活動）型の活動形態を実施していく方向性である。
- (ウ) 地域移行型を検討・実施しているのは、鳥取市、境港市、南部町の3市町。

イ 市町に共通する課題・検討事項等

- (ア) 受け入れ団体の確保
- (イ) 指導者の確保
- (ウ) 地域クラブ運営に係る経費の財源確保（指導者報酬・会場使用料）
- (エ) 持続可能なシステム構築

2 部活動在り方検討会

(1) 概要

学校の働き方改革を踏まえた公立中学校（義務教育学校後期課程含む）の今後の部活動改革に係る方向性や課題等について検討を行った。

(2) 日時及び会場

令和6年7月16日（火） 午後2時から午後4時まで 倉吉体育文化会館

(3) 報告及び協議事項

- ア 地域連携・地域移行に向けた県推進計画について
- イ 全国及び鳥取県における現状
- ウ 県内市町村の部活動の地域連携・地域移行の取組状況及び課題
- エ 令和8年度以降の方向性について

(4) 委員からの主な意見

- ・令和5年度から、中体連主催大会に地域クラブが参入。令和6年度は49の地域クラブ活動が参加した。
全国的に男子が1,876チーム、女子が1,635チーム、クラブ登録を行った。
一番多くある問い合わせは、「なぜうちのクラブは出られないのか」「なぜあのクラブを出すのか」など、実態を把握されていない状況での質問がある。細則は競技ごとによって違うため、まず、情報を伝える、認識をしていただくことが、教員も含めて、保護者の方地域の方も含めて、必要だと思う。
- ・中学校の文化部の状況は、全県的にはほとんど進んでない。吹奏楽部は全員音楽科の教員が顧問をしている。
美術部は大規模校は美術教育が顧問であるが、それ以外は、専門外。茶華道は全員専門外。
吹奏楽の活動は、運動部と同じで、平日と土日のどちらかが多かった。美術は平日のみ。茶華道はどの学校も1週間に1回。

地域移行を考えると吹奏楽が中心となるが、吹奏楽は楽器のことが一番課題に挙がってくる。学校外に集まって活動を行うのがよいと思うが、そこに楽器があるかないかが問題になってくる。運べる範囲のものも少ないので、どうするのが議論になる。

- 部活動の全加入について、町村教育長会でアンケートをして、半分以上は希望性をとっている。推進計画にあるように、全員加入にはしないような方向になっていくと思う。現在、希望性している学校において現状で90%以上部活動に加入している。残り10%は任意のクラブ（スイミング等）に所属している。何もしていないのは数パーセント。
- 部活動は、基本的に中学校が持つ方式をとったことにより、生徒指導を兼ねた子どもたちの安定した教育環境を整えるところから始まり、裏を返せば社会が受け入れる素地が今までなかったところに、どう地域移行（社会から見ると、地域に戻ってきてもらう）していくかが最終的な課題だと考えている。
- 子どもの数によってクラス数が決まり、教員定数が決まる。一つの部活動に複数の顧問を配置する。教員の数には限りがあるが、働き方改革も含めて、非常に負担をかけている状態になる。過去にいくつかの部の削減をしたが、非常に苦しみを伴う。そのため、そこは県の1つの方針として、子どもの数によって部活動数というのがある程度原則の数字が出てくるのが、非常に大切なことと思っている。
- 指導者の課題、謝金のこと、クラブチームを運営される方々の苦労等、それを学校の教員ではない人たちが行うことが可能であるかも、動き始めて課題として見えてきた。学校は地域のものであるというところにシフトしていく必要があると思う。学校は教員のものでないということ。それらが混在している現状ではないか。特に部活動は中学校が引き受けて学校側がやらないといけないという概念があるのが現状ではないかと思う。
- 美術なら公的機関でいえば美術館。茶道、華道はそれぞれの団体がある。実演芸術という部分で考えると課題認識は全く一緒であり、各市町村の状況も様々である。それについて、相談はいつでも受け付ける、またできる限り支援、助言をさせていただきたい。
- 指導者の人材バンクは今年の2月に登録の募集を始め、現時点で10名ほど登録いただいている。陸上、水泳、なぎなたの指導者である。各市町の課題として、指導者の確保、併せて費用の問題は必ず出てくる。県から説明があった財政支援、これまで学校に振り分けていた予算があるが、地域移行となるとそれ以上にかかると思うので、手厚い支援をお願いしたい。